

こぶる混乱の状態にあるので、これを整理する必要を痛感して、この研究を企てた。

2. わが国で刊行されている書籍や、講義内容を分析し、またその歴史やアメリカの考え方も参照して再編成を行なった。

3. 家庭経営学を Home Making と考えるので、家庭経営学イコール家政学という考えが出てくる。Home Management とすれば家政学の一分科になる。家庭管理学は Gilbreth の時代には時間と労力の管理がその内容であったが、家庭経済管理を無視しては家庭管理学は成立し得ない。そこで従来の家庭管理と家庭経済を合わせて家庭管理学（広）とし、または家庭経営学というのである。家庭経済学(家族経済学)は Family Economics として国民経済の中における家庭経済を論ずる純粋科学とし、家庭経済管理と区別したい。家事経済、家事経理の名称はすててよい。家政経済学や家政経営学は重複表現である。生活経済学や生活経営学は成立を疑う。家族関係学や家政学原論は家庭経営学から独立させる。

F—28 家庭経営学の範囲および内容について —家政学原論研究(VI)—

十文字学園女短大 原田 一

1. 家政学は、食物学、被服学、住居学、児童学、家族関係学、家庭経営学の6分科より成ると考えられるが、大学・短大の講義科目には、家政学、家政学概論、家庭管理学、家事経理、家政管理、家政経営、家庭運営、家事経済、家庭経済学、家政経済学、家族経済学、家政経営学等の名称が行なわれ、また一部には生活経済学、生活経営学と称する人もある。この方面は名称も内容もす